

たんぽぽだより



2020年 11月号

秋も深まり、少しづつ肌寒さを感じるようになりました。季節の変わり目は、体調を崩しやすい季節です、熱が出る事も多くなってくると思います。体調管理に気を付けていきましょう。

熱や鼻水、咳などが出る事は、体に入ってきた異物を出そうとする大事な反応です。おさえず、早く出せるように体の働きを助けてあげましょう。また、細菌やウイルスが入ってきた時に、免疫細胞はその都度学習しています。風邪に掛かるほど強くなります。

*今から気をつけておくと良いこと 3 原則

(身体が強くなれば病気にもかかりにくくなります。)

1.食事(玄米ご飯とみそ汁と季節の食材をたくさん摂ること)

2.運動(歩くことや外で遊ぶこと)

3.衣服の着せすぎに注意して病気に負けない身体づくりをしていきましょう。

(下着は綿やウールの自然素材の肌着を着るほうが保温性に富み薄着でも風邪を引きにくくします。またTシャツは通気性は良いのですが夏の衣料で保温性がなく肌寒いのです。冬用の肌着の着用をお勧めします。しかし長袖の肌着では動きが制限されるので半袖肌着をお願いします)

今月は甘える事についてです。“抱き癖がつくから、だっこはしない方が良い”と昔は言われていました。しかし、子どもの育ちで大事なのは十分に甘える事です。甘える事で自己肯定感が育ちます。では、甘やかすと甘えさせるの違いについては？

甘やかすとは、子どもが自分でしようとしているのに、先回りしてしてあげようとする事(過保護)や、子どもの気持ちを聞かず親が決めてしまう事(過干渉)、つまり子どもの気持ちは関係なくて、親や大人の都合です。

甘えるとは、子どもの気持ちが満たされる事です。

「甘え」とはどのような行為を指すのでしょうか。子どもの「甘え」は、親の愛情を求める行為と言えます。スキンシップを求めて抱きついてきたり、「見て見て!」と自分に目を向けさせようとしたり、ときにはわがままを言って保護者を困らせたり…。子どもはそうした言動が受け入れられることで、「自分は親から愛されている」と安心し、それを繰り返すことで徐々に自分に自信をもって自立心が高まっていきます。(ベネッセ 教育情報サイトより)

自分で出来るのに、「靴を履かせて!」と言っている時はどうしますか?この時子どもは甘えたいのです。「受け入れてもらってるのかな?」と感じていて愛されているか、受け入れられているか確かめているのかもしれません。

大人にとっては“こんなこと”が、子どもにとっては重大な事として潜在意識に刻まれ、その後の成長に大きな影響があります。大人になってからもその事が解消できない事もあります。それ程、子どもの時の甘えが満たされる事は大切な事なのです。

今月の目標：秋の自然に触れながら身体を動かして遊ぶ。

つぼみ組【0歳児】：戸外でも歩行を楽しみ秋の自然とふれあう。1人1人の生活リズムを大切に落ち着いた環境のもとで過ごす。

もも組【1歳児】：秋の自然に触れながら、興味を広げ、遊びに取り入れて楽しむ。簡単な言葉で自分の思いや要求を伝えようとする。

ゆり組【2歳児】：秋の自然に触れながら言葉のやり取りを楽しみ、戸外で体を動かして遊ぶ。決まりを守ろうとしたり、身の回りのことを自分でしようとしたりする。

11月の保育内容

養護

つぼみ組：気温の変化や1人1人の体調を把握し衣服・寝具の調節に気を配る。ゆっくりとした環境の中で不安にならないように配慮する。友達にかかわろうとする中で起こる出来事に関して子どもの思いを尊重し肯定する気持ちを言葉や態度で伝え対応する。

もも組：様々な食材に触れ、食べることへの興味を高めたり、苦手なものも励まされながら食べようとする。絵本の読み聞かせを楽しみながら、コミュニケーションを取る。自分の思いや要求を言葉で伝える。

ゆり組：外出後、食事前、排泄後の手洗いの大切さを知らせ、丁寧に洗おうとする。天候や気温に応じて衣服や空調などを調節し、元気に過ごせるようにする。

教育

つぼみ組：感染症の予防として手洗いをしっかりと行い健康に過ごす(1歳以上)。手伝ってもらいながら自分の意思でスプーンやコップを使い食事を楽しむ(1歳以上)。様々な味を知り、離乳食や給食になれる。自分の思いを受け止めてもらいながら安心して過ごす。

簡単な言葉の繰り返しや模倣を通して語りかけに喃語や単語で応じやり取りを楽しむ。

戸外での砂遊びや散歩を楽しみ秋の自然を感じながら体をいっぱい動かす。

音楽やリズムに合わせて音を楽しみながら身体を動かす

もも組：食事では食べられない様子の時には、無理強いせず声をかけ、「次は食べてみようかな」という気持ちを抱けるようにする。体力もついてきているため、様子を見ながら少しずつ遠い公園にも出掛け、より多様な体の動かし方ができる機会を模索していく。

友達との関わりが増えてきているので、何を伝えようとしているかを受け止め、知っている言葉で自分の気持ちを伝えられるよう援助し、伝わる喜びを感じられるようにする。段ボールで作ったトンネルや窓から顔を出したり、隠れたりして友達同士で楽しめるようする。

ゆり組：季節の野菜(いも)を取り入れた簡単なクッキング(焼き芋など)をし、旬の食材に興味を持ち喜んで食べる。食べ終わった後は自分で食器を運び片付ける。

保育者に尿意・便意を知らせ、トイレに行き排泄をする。排尿間隔が空くようになった子は布パンツで過ごす。保育者に見守られながら衣服の脱ぎ着を自分でする。

ごっこ遊びを通して友だち同士で遊べるようになる。異年齢児との関わりがさらに増え、お互いに興味を持ち関わろうとする。好きな絵本を繰り返し読んでもらったり、興味を持った場面を再現して遊んだり、言葉のやりとりをしてイメージを豊かにする。葉の色や形のおもしろさに興味を持つ。様々な素材や用具を用いて、描いたり作ったりすることを楽しむ。音の違いや感触を味わいながらリズム表現を楽しむ。